

爽やかな風

[第1号]



フクジュソウ（花ことば：幸せを招く・永久の幸福）

墨画家 小玉茂右衛門 作【出雲市在住】

はじめに

新年あけましておめでとうございます

2019年は新しい元号が始まる年となります。皆様方にとって良い年となりますようお願いしております。

昨年の当協会の理事会において理事長に選任されました。前理事長の福原圧史ほど有機農業の実践経験はありませんが、島根県の有機農業の推進に邁進してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

このたび長年の懸案でありました広報紙を当面は不定期ではありますが発刊することにいたしました。つきましてはこの機会を借りて、理事長就任に当たっての所信を述べさせていただきます。

当会は2007年3月1日にNPO法人の認可を受けスタートし、その後、2008年9月3日に国から有機JAS認証団体の認定を受け、今日まで10年余り活動を続けてまいりました。この間、生産者の方をはじめ多くの諸機関のご支援ご協力を賜り、有機JAS認証件数も徐々に増加し、また、県や市町村からの委託による有機農業の普及啓発活動等にも取り組んできました。

近年、地球環境は大きな変動を繰り返し、日本においても大きな気象災害が各地で頻繁に起こり、そのたびに多くの尊い人命が失われるとともに甚大な被害が発生しております。

2015年に「国連気候変動枠組条約締約国会議(通称COP)」で合意された「パリ協定」を多くの国・地域が批准したことで世界の潮流が大きく変わり始めているように思います。

また、国連加盟の193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals : SDGs)」には17の個別目標が設定されており、その中の15番目に「陸の豊かさを守ろう」という目標が設定されております。その主な内容は『陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および、逆転ならびに生物多様性損失の阻止を図る』となっています。

当協会が使命としている有機農業の推進は、まさにこの15番目の目標の達成に大きく寄与するものと、協会関係者一同日々信念をもって活動しております。

2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックに係る食材の調達においては、基本的にオーガニック食材で賄う方向で取り組まれていると伺っております。

島根県は全国に先駆けて県立農林大学校に「有機農業専攻コース」を設置し、有機農業の後継者育成に取り組むなど「有機農業の推進」を県の施策として掲げている自治体であり、その取り組みは県内外からも注目されております。

しかし、現在国内で展開されている農法を有機農業へ転換していくことはそんなに簡単なものではなく、また無理矢理に転換することが決してベストであるとは考えておりません。

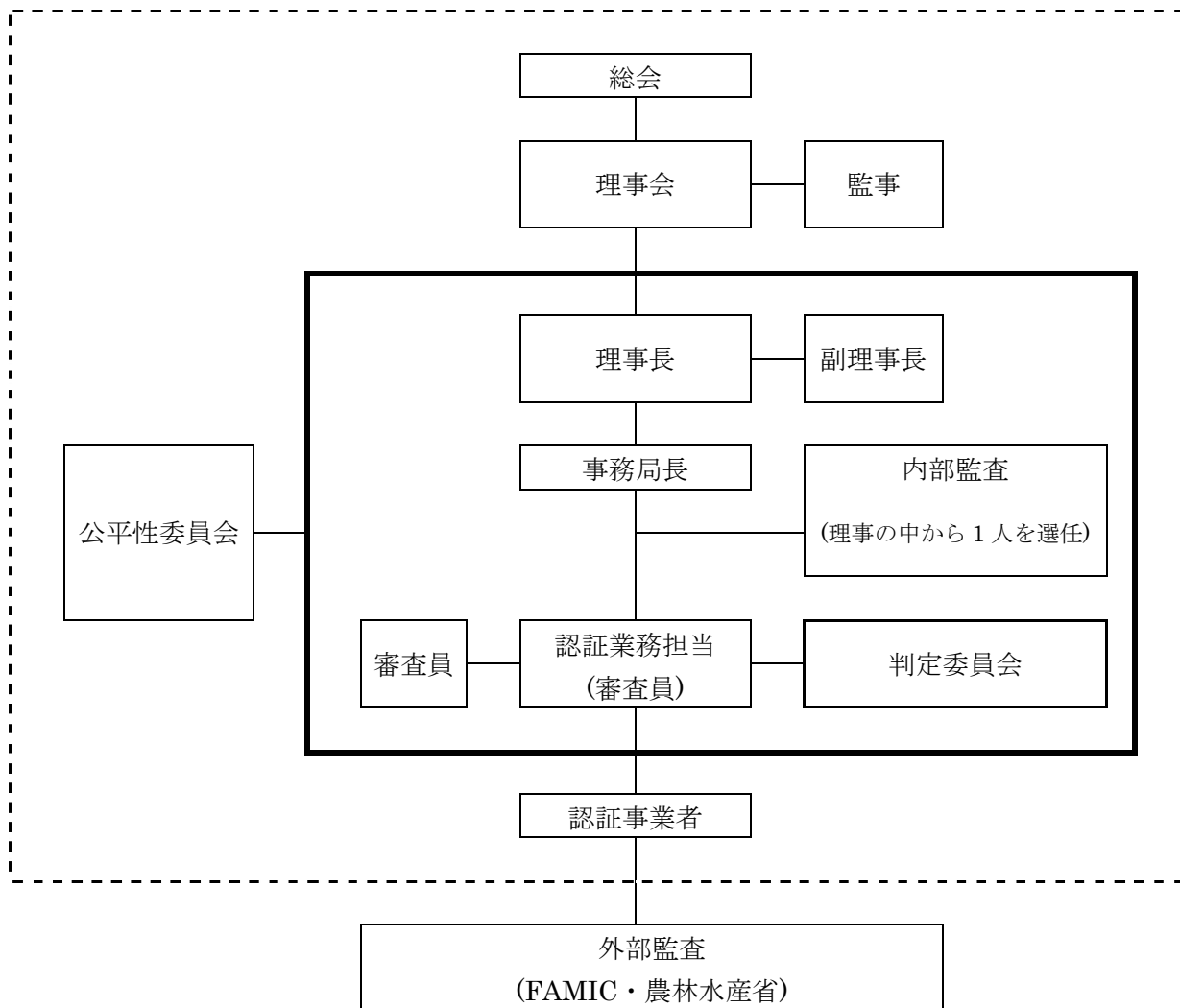
約100年前の日本の農業は全ていわゆる有機農業であったわけですが、今日その割合は耕地面積の僅か0.5%程度(H22)と言われております。100年かけて壊れてきたものを立て直すには同等以上の年月がかかるのではないかと思います。そのスピードを少しでも加速化する努力は全ての国民が意識を持って取り組んでいかなければ、前述したSDGsの15番目の目標達成も難しいのではないのでしょうか。この機会に有機農業の実践者や今後取り組もうと考えておられる方、また有機農産物を意識して購入されている方だけでなく、国民一人ひとりが今一度「有機農業」に関心を示し、有機農業について学び、一人ひとり何ができるかを考えることが大切だと思います。

当協会も限られた体制の中ではありますが、引き続き有機農業の推進の一助となりますよう微力ながら努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

NPO法人 島根有機農業協会
理事長 松本公一

島根有機農業協会の組織体制等（2019年1月現在）

1. 組織図



※ が認証業務を行う組織

2. 役員及び事務局体制

理事長 松本 公一
 副理事長 土居 勝栄
 理事 三浦 寿紀【認証内部監査員】
 理事 井口 隆史
 理事 福原 圧史
 理事 渡部 裕子
 理事 浅津 知子
 監事 佐藤 貞之

事務局長 柳楽 咲和江
 事務局員 深見 和年

3. 審査員（6名体制）及び判定員（8名体制）

❁ 2月の予定

1. 関野吉晴氏『食と農の講演会』

探検家で医師、そして、武蔵野美術大学教授の関野吉晴氏をお招きし、講演会を開催します。

- 日時：2019年2月3日（日曜日） 13時30分開演（開場は12時30分）
- 場所：島根県芸術文化センター「グラントワ」スタジオ1（益田市有明町5-15）
- 入場料、お申込み：不要

当日はプチオーガニックマルシェもオープン予定です。

チラシは当会 **WEB** ページで閲覧できます

（主催：島根県 企画運営：NPO 法人島根有機農業協会 協力団体：関野吉晴氏「食と農」の講演会実行委員会）

2. 石綿薫氏『目からウロコの農業講座』

- 日時：2019年2月28日（木曜日） 9時30分から16時（9時受付開始）
- 場所：益田市市民学習センター 研修室202（益田市元町11-26）
- 対象：農業にたずさわる方、関心のある方どなたでも
- タイムスケジュール：

9時30分	グループごとに自己紹介
10時～14時	石綿先生の講座 （12時～13時はお昼休み 有機野菜を使ったお弁当は要申込）
14時	グループワーク（グループごとに日ごろの問題点を出し合い解決策を探る）
15時	質疑応答

- お申込み（当会 WEB ページから申込用紙をダウンロードできます）

2月21日（木）までに、氏名・住所・連絡先、お弁当（1000円）の要・不要をお知らせください。その際、農業経験年数と栽培品目、質問や悩んでいることなどもお知らせください。グループ分けの参考にさせていただきます。

- 概要

農に取り組む中で生じる日々の課題。有機農業協会では長野県の農業経営者の石綿薫氏をお招きし、みなさんのさまざまな悩みにお応えいただけるような講義をしていただいております。

今年度は10月の柿木村での講座につづき2回目となります。引き続き石綿先生の知識と経験を引き出し、生命としての農作物の基本を知ること、農業を实践される方の日ごろの問題が解決され、栽培品目に関わらず、大規模経営の方にも、家庭菜園や自給的な農をされる方にも、技術の向上につながるような講座にしたいと思います。

また今回は、参加者のみなさま一人ひとりの悩みを分かち合えるように、農業者グループの提案でグループワークの時間も設けます。経験年数や栽培方法に関わらず、幅広くご参加をお待ちしています。

（主催：島根県 企画運営：特定非営利活動法人島根有機農業協会）

＊＊10年を振り返って

事務局長 柳楽咲和江

会員の皆様には失礼ばかりしております。今年もよろしくお願い致します。

有機 JAS 認証機関として当協会がスタートしたのは平成 20 年 9 月のことでした。本年度で 10 年たったこととなります。この 10 年いろいろなことがあったなと思い出しているところです。

ご存知の方もおられるかと思いますが、当協会に正式に勤務する前、私は小学校で先生として働いていました。島根有機農業協会が立ち上がったころ、出産の為、仕事をセーブしていた私は、諸事情により、当協会の事務局長をしていた父から手伝いを頼まれたのが、この仕事へ関わるきっかけとなったのです。(そこから、協会の職員として働くようになったいきさつは、話が長くなるので、皆さんとお会いしたときにでも興味のある方は聞いてくださいね。) 島根有機農業協会の職員となったということは、転職したということです。先生の仕事が嫌になったわけではない上、結婚 3 年目、当時 2 歳と 1 歳の子供を抱える私は『嫁』『母親』『職員』どれも新人さんです。当時は不安しかありませんでした。(すみませんここは正直に書かせてもらいます。) 先生の仕事も 8 年かけてようやく自分の中で方向性が見えてきたのに、この状態で新しいことへの挑戦はかなり頭を抱えました。

協会の仕事は大きく分けて 2 つ、『有機農業の普及活動』と『有機 JAS 認証業務』です。有機農業の普及活動は単なる技術の普及だけでなく、環境問題、食育、医療、生き方など幅が広く、自分が思っていた価値観を見つめ直し、内容を把握することが必要です。自分が納得していないことは、なかなか伝えられないもので、自分の世界があまりにも狭かったことを思い知らされました。有機 JAS 認証機関としての事務局の仕事は、農業と名はつくけれど、土に触れることや自然と触れることは殆どなく、書類や活字に触れるばかりです。お恥ずかしい話、農業用語に触れる機会もなかったので、話を聞きながら『?マーク』を頭に浮かべ、有機 JAS 認証業務は JAS 法という法律の中に組み込まれた制度のため、行政用語もなかなか理解できず只々時間だけが過ぎていく日もありました。そして、事務局の経営について考えることも頭を悩ませました。先生をしていたときには仕事の内容だけを考えればよかったです。がついてまわるお金のことがこれほどまでに大変だとは思ってもよらなかったです。

この他にも職員の家族が病気になり介護に専念しなくてはいけなくなったときがあり、私自身も 2017 年 3 月より病気の為一年近く休職しながらの勤務を送ったりした時期がありました。少ない人数での業務運営の為、皆様にはご心配やご迷惑をおかけしたと思っております。皆様の支えもあり、今でも何とかやっております。この場を借りて感謝申し上げます。思うようにいかないことだらけで、戸惑うこともあります。有機農業に関する仕事に就いたことは決して無駄ではなく、生きていく上での大切なことを教わった 10 年だったように思います。

まだまだ課題は山積みであり、たくさんの情報の中で有機農業の考え方を「伝えること」、「選んでいただくこと」はとても難しいことです。有機農業の取り組みはなんだか時代の流れとは反対方向に進んでいたように思うのですが、少しずつですが時代の流れがこちらにもきているようです。そして、その流れが、多くの人が平和になるような方向であってほしいと思います。

最後に事務局長へ就任の連絡も遅くなり誠に申し訳ございませんでした。また、機関紙の発行や賛助会員様への事業報告なども滞っております。今回の発行にあわせ送付いたしますのでご確認ください。今後ともよろしくお願い申し上げます。

＊＊＊ お知らせ

1. 「有機のがっこう in しまね(仮称)」構想

- 目的：有機農法による水稻作及び畑作における基礎的な技術の確立・普及
- 方法：島根県内に実証ほ場を設けて研修会等を実施
- 実証ほ場の内容
 - ①水稻作：抑草効果を期待した「発酵肥料(JAS 有機対応)」を活用した栽培体系の普及・拡大
 - ②山下一穂さんが提唱した「畑まるごと堆肥化」技術の普及・拡大
- 実証ほ場の設置にご協力いただける農家・地域を募集します
・「島根有機農業協会」まで連絡をお待ちしております
- 実施予定時期：2019年4月～

2. 出前講座の実施

- 目的：有機農業や生物多様性など私たちの周りの環境を保全するために、日頃考えたり活動すべきことなどを自由に話し合う場を持ちませんか。
- 方法：いろいろなグループや地域での集まりなどに、依頼があればお話しに出かけさせていただきます。(小学校等も可)
- お話に伺う者：「島根有機農業協会」の理事ほか
- 具体的には：「出前講座」を希望される場合は、事前に島根有機農業協会へ問い合わせさせていただきます、日時や内容等をお伺いし調整後に実施（出来る限り事前の申し込みは開催日時に余裕をもってお願いします）
- 実施予定時期：2019年9月以降

・・・・・・・・・・・・・・・・・・編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・ 機関紙の発行は初めてで、正に手探り状態での出発です。今後、回を重ね
- ・ ながら内容等もより充実していきたいと思えます。皆様方の忌憚のない感想
- ・ やご意見をお待ちしております。次回からは、県内の有機農業実践者やグル
- ・ ープの訪問記をご紹介できればと考えております。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

特定非営利活動法人(NPO法人) 島根有機農業協会

〒699-4621 島根県邑智郡美郷町粕渕 404 番地 5

(いきいき住民活動支援センター内)

電話・FAX 0855-75-0017

E-mail : shimane-yuki-nougyou@feel.ocn.ne.jp

Web : <http://www.shimane-yuki.or.jp/>